

れに千九百四年、五年には英國に大不景氣風が見舞つて來たからそのため貸銀は低下した。然も貸銀は下つたまゝ、千九百年當時の率にまで恢復しないのである。

こんな譯であるから、最近労働者の中に著しく不平不満の氣分が漲るに至つたのは何でも別に不思議こするには足らない。

■ 力としての教育

然し、最近に至つて眞の貸銀の率が或割合をもつて騰つて來たのは事實である。處が、曩に大監督が申した様に、今日労働者が色々の爭議を起す真因は確かに國民教育の進歩の結果であると思ふ。今ではどんな片断書へ行つても新聞を讀んでゐる労働者は先づないといふつてよい。町では夕刊賣が方々の辻に立つて旺んに呼賣をして居る。それから集會が所々に開かれるので、人々は社會問題や經濟問題を研究する機會が頗る殖へた。それに低廉な書物や雑誌の發行、宣傳用の無代配付物等が近頃メツキリ増加して來た。無料圖書館に行けば貧乏で本を購ふことの出来ない人々のために高價な書物が具つけられてある。尤も懶懶人達は餘り高尚な書物には一向目を通さない懶みがあるが、それでも彼等の智識を開発する上に偉大なる効果のあることは堅く信じて疑はぬ處である。

■ 労働者の不平

労働者の頭腦がかくの如く年一年非常に發達するに對して、其の